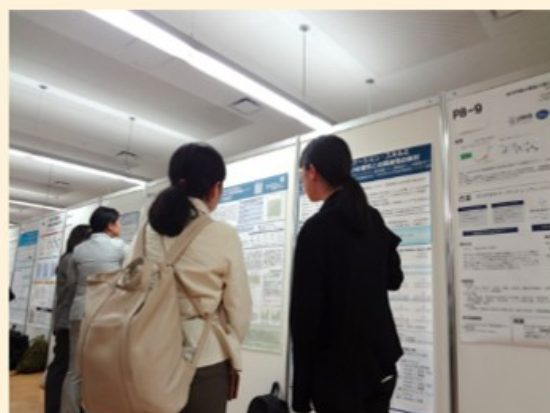




News Letter

第40回日本国際保健医療学会学術大会

に参加しました！！



コアタイムでの質問対応

2025年11月1日から2日にかけて、帝京大学板橋キャンパスで開催された第40回日本国際保健医療学会学術大会に参加しました。外国人保健、医療通訳をトピックとして当団体の活動内容をポスターで発表し、ご来場の方々に見ていただきました。

質問をくださった方には解説したり、ブースの前で立ち止まった方にはチラシを手渡ししてご説明したりと、普段の業務では味わえない交流ができました。

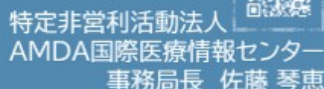
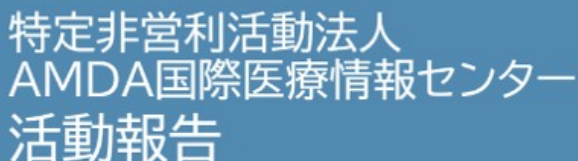
他団体のポスターはうちと同じく医療通訳であったり、外国人に焦点を当てた国内の研究や、国外でのUHC(universal health coverage)研究など興味深いものが多く、私たちも発表者の方にいろいろと質問させていただき、学びを深めました。

また、日常の業務の中で私たちが相談者さんに紹介したり、逆に相談者さんを紹介して頂いている団体の方々と実際にお会いすることができました。オフィスから出て他団体の方と対面するとても貴重な機会です。ご挨拶して情報を交換させて頂きました。激励の言葉も頂戴し、嬉しさとともに「これからも頑張っていかなければ」と身の引き締まる思いでした。



(左)元事務局長 鈴木 (右)現事務局長 佐藤

実際の発表ポスターは次ページに掲載→



背景 日本は少子高齢化社会であり、総人口は2010年頃をピークに減少に転じているのに対し、日本に在住・滞在する外国人は急増している(グラフ1)。在住・訪日に関わらず外国人であっても医療機関を受診する機会には日本人同様にあるが、外国人は言葉や制度の壁に阻まれ、必要ときに円滑に受診できないことがある。日本は国民皆保険制度によりUHCを実現しておりSDGsにも貢献していると考えられるが、日本語にハンディのある外国人にとってはそうとは言えない場合もある。受診の遅れは傷病の重症化や公衆衛生上の問題につながりかねない。特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センターは、こうした外国人を支援するため1991年より活動している。

外国人が医療機関を受診するときの障壁
(当センターの相談内容より)

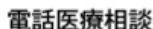
- ・外国人を受け入れているかどうかが医療機関ごとに異なる
- ・検索による情報だけでは受け入れているかどうか分からない
- ・日本の医療制度が分からないために受け付けてもらえない
- ・患者から申し込んで利用できる公共の通訳サービスがほばない

Figure 1 is a combination bar and line chart titled "1990-2023年" (1990-2023). The left Y-axis represents the population in units of 100,000 (百万人), ranging from 0 to 1,400,000. The right Y-axis represents the percentage of the total population, ranging from 0 to 4.0%. The X-axis shows the years from 1946 to 2023. The chart displays three data series: the total Japanese population (blue bars), the foreign resident population (green bars), and the percentage of the foreign resident population (brown line). The total Japanese population shows a steady decline from approximately 1,250,000 in 1946 to about 1,200,000 in 2023. The foreign resident population shows a significant increase from near zero in 1946 to approximately 1,200,000 in 2023. The percentage of the foreign resident population shows a corresponding increase from near zero in 1946 to about 2.0% in 2023.

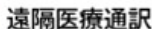
Year	Japanese Population (百万人)	Foreign Resident Population (百万人)	Foreign Resident Percentage (%)
1946	1250	0	0.0
1950	1240	0	0.0
1955	1230	0	0.0
1960	1220	0	0.0
1965	1210	0	0.0
1970	1200	0	0.0
1975	1190	0	0.0
1980	1180	0	0.0
1985	1170	0	0.0
1990	1160	0	0.0
1995	1150	0	0.0
2000	1140	0	0.0
2005	1130	0	0.0
2010	1120	0	0.0
2015	1110	0	0.0
2020	1100	0	0.0
2023	1200	1200	2.0

遠隔医療通訳を利用した受診を受け入れない医療機関もあることを当センターでは数多く経験している。遠隔通訳で患者の希望する医療機関の受診がかなわない場合に、受け入れ可能な他の医療機関を提案できることが、相談と通訳を並行して行っている当センターの特徴である。

電話医療相談 10:00～16:00
遠隔医療通訳 10:00～15:00(最終受付)



症状や地域、言語の希望に応じて、外国人が受診しやすい医療機関を探して伝える。
三者通話機能で予約支援も行っている。



電話またはウェブ会議システムを利用した医療通訳。医療機関、患者の双方から利用することができる。事前予約を推奨している。

月	火	水	木	金
にほんご	にほんご	にほんご	にほんご	にほんご
英語	英語	英語	英語	英語
韓国語	中国語	スペイン語	中国語	ポルトガル語
フィリピン語	タイ語	ベトナム語		ベトナム語

相談・通訳料は無料です。全国どこからの相談にも応じます。

相談・通訳件数

当センターは1991年に活動を開始し、1993年度からは東京と関西の2地点で活動していた。2014年度末に関西の拠点を活動を終了し、東京に活動を集約した。これは外国人人口の増加を受け、各地にそれ以前はなかった外国人を対象とした相談センターが各地に増えたことから判断した。さらに2018年度には東京都の拠点もそれまでの体制を見直し大きく変革したため、それ以前の年度と単純に比較することは難しい(グラフ2)。

相談者の内訳

(ア)グラフ3)より、当センターで相談を受ける対象者は、旅行在外日本人(居住者が主となっている。旅行者については、日本入国後に発生した傷病について相談を受け付けており、日本の医療を受けることを目的に来日する者は対象としない。相談者のうち「支援者」としているのは、当センターでは外国人の医療に関わる関係者からの相談も受け付けており、外国人当事者からの相談と区別するためである。)

相談内容の内訳

とはいえ通訳件数をみると、患者から依頼できる公共の通訳サービスが国内に皆無だったためにその受け皿となっていたことが推測される。また2018年度の体制変更以降、相談件数・通訳件数ともに増加傾向であることから、日本に在留・滞在している外国人が医療機関の受診に困難を抱えていることがうかがい知れるデータであるといえるのではないかと。(4)

(イ)グラフ4)より、当センターで受けている相談内容は、外国人が受診しやすい医療機関を探すものが大半を占めている。次に多いのが医療通訳についての問合せである。2020年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延によりロックダウンが行われた年であり、当センターでは4月10日～5月20日まで対応日と対応時間を拡大して相談に応じた。このとき受診先の情報を求める相談に次いで多かったのが、当センターの業務に関する相談であり、有事の際には外国人を支援する側も不安や不明なことが増加し相談先を求める傾向にあることがうかがい知れる。

グラフ5)と表1)は、当センターの相談内容について受診を希望する診療科目を集計し、これを日本全体の受診者の傾向と比較を試みたものである。(7)

グラフ2) 当センターの相談・通訳件数推移

Figure 1 is a combined bar and line chart titled "1981-2024 年国". The left Y-axis represents the number of deaths (死亡人数) in thousands, ranging from 0 to 5,000. The right Y-axis represents the death rate per 100,000 population (死亡率), ranging from 0 to 50. The X-axis represents the year (年), from 1981 to 2024. The bars represent the number of deaths, and the lines represent the death rate per 100,000 population. The death rate per 100,000 population shows a significant peak in 1995, reaching approximately 48, followed by a sharp decline and a subsequent rise in 2020, reaching approximately 25.

グラフ3) 当センターの相談者の内訳

2018-2024 年推定

年次	設備費	旅行費	交遊費	生活点費	不明
2024	55%	15%	10%	15%	5%
2023	55%	15%	10%	15%	5%
2022	55%	15%	10%	15%	5%
2021	55%	15%	10%	15%	5%
2020	55%	15%	10%	15%	5%
2019	55%	15%	10%	15%	5%
2018	55%	15%	10%	15%	5%

グラフ4) 当センターの相談内容内訳

通訳内容の内訳

(✓)グラフ6)では通訳依頼元別に、グラフ7)では新規・継続利用者別に通訳内容の内訳を示した。

依頼元は病院が半数以上を占めており、病院だからといって院内に通訳体制が整っているとはいえない現状であることが分かる。

医療機関の受診は1度で終了しないこともあり、何度も通院する場合に通訳費用を患者が負担するとしたら、医療アクセスにおける不公平性が生じるといえるのではないかと。

注)2018年度の組織改編のため、当センターでは患者からの依頼による通訳の受付を2018-2023年度にいったん休止し、2024年度に再開した。

グラフ6) 通訳依頼元の推移

2018-2024年度

年	障がい	クラニウム	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
2018	10	10	10	10	10	10	10	10
2019	10	10	10	10	10	10	10	10
2020	10	10	10	10	10	10	10	10
2021	10	10	10	10	10	10	10	10
2022	10	10	10	10	10	10	10	10
2023	10	10	10	10	10	10	10	10
2024	10	10	10	10	10	10	10	10

人数

2018-2024年度

障がい クラニウム 音楽 音楽 音楽 音楽 音楽 音楽

年

グラフ7) 通訳利用者の内訳

年份	新發 (New cases)	續發 (Continued cases)	合計 (Total)
2018	12	48	60
2019	12	28	40
2020	22	22	44
2021	22	18	40
2022	22	32	54
2023	28	32	60
2024	38	42	80

和論 滞日・訪日外国人は急増しており、多文化共生や誰も取り残さない社会への理解が求められている。日本で外国人が直面する医療機関受診時の課題には言語の壁だけでなく、文化的背景も影響している。当センターではこうした壁が少しでも低くなるように支援を続けるとともに、社会の理解や公的施策が拡大されるようにこれからも発信・提言していきたい。

【引用·参考文献】

- 1) 出入国在留管理庁, “在留外国人統計統計表”, 出入国在留管理庁, 2025-10-18, https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei/ichiran_touroku.html
- 2) 総務省統計局, “人口動態調査”, e-Stat 政府統計の総合窓口 統計で見る日本, 2025-10-18, https://www.e-stat.go.jp/stat_search?page=1&toukei=00450011
- 3) 総務省統計局, “令和5年患者調査”, e-Stat 政府統計の総合窓口 統計で見る日本, 2025-10-18, https://www.e-stat.go.jp/stat_search/files?page=1&layout=datalis1&toukei=00450022&tstat=0000011224321&cycle=7&tclass1=000001224322&tclass2val=0
- 4) 日本政府観光局, “訪日外客数の推移”, 日本の観光統計データ, 2025-10-18, <https://stats.tistics.jp/oto.go.jp/graph/#graph~inbound~travelers~transition>

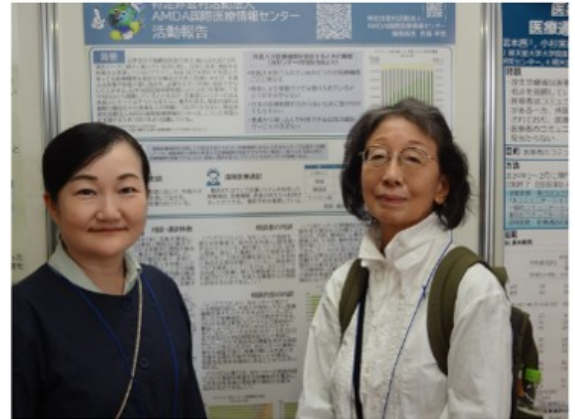


一般演題（ポスター発表）

左ページが実際に発表したポスターです。当団体も活動開始から30年以上が経ち、相談件数、通訳件数はかなりの数となりました。

これからも活動から得られた知見、積み重ねた経験を発信・提言して「誰もが適切な医療を受けられる」社会を目指していきたいと思います。

2日間、ありがとうございました。



小谷のニューヨーク通信



No.1 新しい当たり前

いつもニュースレターをご覧くださりありがとうございます。今月号のコラムから、日本でAMDA事務局として活動させていただいた小谷が、ニューヨーク州に住みながら博士号取得を目指す生活の中のちょっとした気づきや考えを共有できたらと思います。

ハワイでトランジットを経て、9月1日の朝にニューヨーク州へ到着しました。国内旅行ですら一人でしたことがない私は、日本の空港での保安検査の時点からずっと緊張していました。心配性の私は、あらゆるものに鍵をかけ、持ち物は肌身離さず、財布を出すときも一瞬で済ませ、通りすがりの人と目を合わせないようにし、声をかけられても反応しないようにしていました。移動中、五感を研ぎ澄ませて過ごしている自分を客観的に見たとき、現地の人たちはここまで警戒しているようには見えず、「私だけ何をそんなに構えているのだろうか」と自分に呆れてしまいました。



そんなとき、日本にいる夫から「慣れるまではストレスかもしれないけど、日本の治安が良すぎるだけだから、外出時に少し緊張感を持つのはむしろ良いことかもね」と言われました。その言葉で、荷物を管理し、自分の身を守るために周囲に気を配ることは、本来当たり前のことなのだと気づかされました。日本では、貴重品以外の荷物を離席時に置いたままにしたり、イヤホンをつけて移動したり、電車の中で仮眠をとったりすることが当たり前でした。これは「治安の良さ」の表れとも言えますが、実際には日本でもニューヨークでも、自分の持ち物や行動は自己管理・自己責任であることに変わりはありません。だからこそ、今は「自分で自分を守る」ことを意識する日々に少しずつ慣れていこうと、前向きに捉えています。

もう一つ、こちらに来て「新しい当たり前」と感じたことがあります。それは、肌の色や体型、話す言語の異なる人々が、どの方向を向いても目の前に広がっている光景です。さらに、街中の広告や、個人情報を入力する際のジェンダーなどの選択肢においても、DEI(Diversity, Equity, Inclusion)を重んじ、推進していることが随所に感じられます。これまで特に「生きづらさ」を感じてこなかった私でも、ニューヨークでは「人の目」から解放される感覚を実感しました。その時、自分が無意識のうちに、常に周囲の視線を気にして生きていたことに気づいたのです。一方で、解放されたことで次に問われたのは、「自分はどうかりたいのか」ということでした。これは外見に限らず、あらゆる固定観念が問い直される中で、自分の意見や考えをしっかりと持つ必要があるということでもあります。つまり、自由を得るということは、同時に自分の選択に責任を持つことなのだと、実感しています。

引っ越してきてまだ1週間ですが、アメリカに来てから感じる「新しい当たり前」。これからの生活の中で、どんな気づきや学びが待っているのか。そしてそれを次のニュースレターで皆さまに共有できることを、今から楽しみにしています。

電話医療相談

病院・クリニックへ行きたい

外国語が使える病院・クリニックはどこ？

私たちが病院・クリニックを探します

AMDA 国際医療情報センター
電話医療相談
電話医療通訳

英語・通訳は0円です
電話のお金はかかりません

TEL 03-6233-9266

受付時間
平日、12/29-1/3は休み
10:00~16:00
10:00~15:00

日本国内の相談に応じます

電話医療通訳

あなたが病院・クリニックへ行くとき、私たちが通訳します

- ◇ 始めに予約をしてください
- ◇ 病院・クリニックへ行くときは、使いたい言葉と同じ曜日にしてください
- ◇ 電話通訳を使っていいか、病院・クリニックに聞いてください
- ◇ 私たちは病院の人と患者（あなた）の間の通訳をします

AMDA国際医療情報センターの活動



多言語相談電話

TEL 03-6233-9266
(平日10時-16時)

多言語相談電話では、三者通話機能を使用して、医療機関への予約支援も行っています

日本人の方からの相談と通訳予約

TEL 050-3405-0397 (平日9時-16時)

ホームページ言語別QRコード <https://www.amdamedicalcenter.com/>

English 	한국어 	中文 	Español
Wikang Pilipino 	ภาษาไทย 	Tiếng Việt 	Português

ご寄付のお願い

AMDA国際医療情報センターは、皆様からの会費と寄付により運営されています。
あたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

なお、当センターの運営はAMDA(本部:岡山)とは別会計で、当センター独自の会員制度となっております。

会費・寄付の振込先①

クラファンサイトやソフトバンクのつながる募金を利用して、オンラインでお手続きできます

それぞれクレカ利用可能&領収書の発行対応
単発・継続など支援の形も選択可能です

寄付総合案内



1. Syncable(シンカブル)
2. ソフトバンクつながる募金
 - ◇クレカ払い
 - ◇paypay払い
 - ◇ソフトバンクポイントで寄付
 - ◇月々の利用料金とまとめて寄付

オンラインでのお手続きがおすすめです

会費・寄付の振込先②

郵便振替が利用できます

郵便振替:00180-2-16503
加入者名:AMDA国際医療情報センター

銀行振込ご希望の場合、
050-3405-0397にご連絡ください(平日9時-16時)

賛助会員 年会費 (年度は4/1から3/31まで)

団体:20,000円 学生:2,000円
個人:6,000円 中学生以下:1,000円

- 団体・個人会員は半年ずつの分納が可能です
- 賛助会員は何口でも加入いただけます
- 初年度時、10月以降に加入の場合は以下の通りです
団体10,000円/個人1,500円

小林国際クリニック

脳神経内科・消化器科・
外科・小児科

平日 午前9:15-12:00
午後2:00-5:00

土曜 午前9:15-午後1:00

休診日 水・日・祝

〒242-0005

神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110

小田急江ノ島線 鶴間駅 徒歩4分

TEL 046-263-1380

<http://5884-international-clinic.com/>

SNSも更新中！

◇Facebook→<https://www.facebook.com/AMDAIMIC>

◇X→<https://x.com/amdaimic>

◇Instagram

→<https://www.instagram.com/amdamedical/>

◇tiktok→<https://www.tiktok.com/@amdamedical>